

南部

老人福祉
ふれあいタウン

シルバーエリア



全日本老人福祉会 秋田県支部

シルバーエリア会

秋田県が、人生八十年時代に対応する未来型福祉モデル施設として、昭和五十七年度から建設を進めてきたエリアの全施設が、老人専用マンションを最後にこのほど完成し、去る九月二十日に完工式が行われました。

エリアは、高齢化社会の進行に伴って多様化するお年寄りのニーズにこたえる福祉施設として、十五万平方メートルの土地に総事業費五十八億円をかけて整備してきたものです。

完工式には国、県、町などの関係者約二百人が出席し、盛大に行われました。式典ではエリアの建設に携わった業者の方々への感謝状贈呈も行われ、佐々木知事は「地域福祉の拠点として、さらに大きく寄与することを期待したい」とあいさつしました。



第5号

秋田県南部老人福祉総合エリア



秋田県知事 佐々木 喜久治

〔完工式辞〕

本日、秋田県南部老人福祉総合エリアの完工式が、来賓各位を始め、関係者多数のご出席のもとに、このように盛大に挙行できましたことを厚くお礼申し上げます。

（中略）

ご承知のとおり、近年、県民の福祉に対するニーズは、寝たきり老人や虚弱老人を抱える家族の介護負担の増大のほか、健康管理に対する関心の高まりや老人の生きがい志向の多様化などを背景に、これまでの単一的な福祉サービスから総合的なサービスを求める傾向をみせてきております。

老人福祉総合エリア構想は、こうした時代の要請に対応し、本県がこれからの長寿社会対策の大きな柱の一つとして、保健、医療、福祉とともに、居住、社会参加等の複合的機能をもつ、新しい視点にたった老人福祉のモデル施設として、昭和五十七年度から県内三地区に建設を進めてまいりましたものであります。

大森町には県主導による「福祉標準型」を、また、能代市及び合川町には、それぞれ地域主導による「医

療保健型」、「障害福祉型」を、地域の特性に即応しながら整備を進めているところであり、更に、秋田市を中心とした、中央地区においてもエリアの建設に向けて構想を策定しているところであります。

当エリアは、県が中心となり、地元横手平鹿広域市町村圏組合や大森町とそれぞれ役割を分担しながら、昭和五十七年度から約五十八億円の工事費をもって建設を進めてまいりましたが、このたび、老人専用マンションの完成により、全施設の工事が終了したものであります。

ご承知のとおり、このエリアは、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、ケアハウス、老人専用マンションなど、入所者に対するサービスのみならず、地域住民の憩いや世代間交流の場としての「コミュニティセンター」、在宅の虚弱なお年寄りに対して、家族に代わって入浴や給食サービス、動作訓練、健康チェックなど幅広いサービスを行う「在宅老人介護センター」、老人の生きがいを高めるための「生きがい創作館」老人への「いやりや助け合いの心を

育むとともに、老人と児童の交流を図る「子どもと老人のふれあいセンター」など、地域福祉の拠点としてまた、地域の皆様に総合的・複合的サービスを提供するモデル施設として、本県が全国に先駆けて独自に設置したものであります。

昭和六十三年以降順次オープンした各施設の利用者数は、ともに当初の予想を大きく上回っており、また明日オープンいたします老人専用マンションにおいても、県内在住者及び県外に在住いたします県出身の方々から多数の応募があり、定員の八割の入居者が決定したほか、県内はもちろんのこと全国各地からの相次ぐ視察など、県内外から大いに注目を集めているところであります。初期の目的は十分に達成されているものと確信いたしております。

いずれにいたしましても、当エリアは、今ようやく全施設が完成し、その第一歩を歩みだしたところであります。この際特に申し上げたいのは、これらの施設を上げて支えていただいております大森町のボランティア団体であります。老人福祉総合エリアのスタートとともに、活動が始められました四十にのぼる大森町のボランティア団体の皆様のご支援なしでは、この施設の円滑な運営は期待し得ないと思っております。ボランティアの皆様のごこれまでの活動に深く感謝を申し上げます。とともに、

今後一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。終わりに、本日まで建設が順調に進んでまいりましたのは、地元大森町はもちろんのこと、地域の各界の皆様のご協力と、更には、施設の建設に当たっていただきました工事関係者のご尽力の賜であり、改めて心から感謝申し上げますとともに、本日ご臨席の皆様のご健勝を心からお祈りいたしまして、式辞といたします。





秋田県社会福祉事業団

理事長 堀川 進

昭和六十三年にコミュニティセンター、在宅老人介護センター等がオープンしてから、この度の老人専用マンションの竣工で、待望久しかった「エリア」の全施設が完成いたしました。深い感慨を覚えますとともに、今後さらに運営の充実に努め、利用者の皆様に心から喜んでもらえる施設づくりを目指し、努力する所存でございます。

当エリアは、秋田県が人生八十年時代に対応する老人福祉施策の一環として、各種の入所施設をはじめ、地域や世代間の交流施設、生きがいのための施設など、総合的、複合的な機能をもったモデル施設として、また保健・医療・福祉の一元化を目指した施設として、全国に先駆けて設置したものであり、その管理運営を、当事業団が県より委託を受けているものでございます。

おかげ様でこのエリアを利用される方々は非常に多く、視察においては県内はもとより、全国各地から連日訪れており、県内外から大きな注目を集めております。今般オープンいたしました老人専用マンションにおいても、県内在住者及び県外に在

住している本県出身者の方々から、たくさんのお声かけがございました。

それだけ注目度の高い、そして期待されている施設であると考えております。

今、エリアの全施設が完成しましたが、私どもはこれからが正念場と存じております。二十一世紀には、県民の四人に一人が高齢者といわれており、言わばこのエリアの良否が県の老人福祉施策のキーポイントになろうと思われまします。

県政の重要課題である「活力ある長寿社会の形成」を図るため、我々事業団職員一同一層の研鑽を積み、県民の福祉ニーズを適時に把握し、人間味豊かな対応を心掛けたいと思っております。そして、南部老人福祉総合エリアが、文字どおり地域に開かれた老人福祉の理想的な施設となるよう、努力を惜しまぬ決意であります。

エリアの完工に際しまして、今後とも、県当局をはじめ大森町、各関係機関の皆様からの一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



秋田県老人クラブ連合会

会長 寺田 忠 夫

一日も早い完成を願っていた「秋田県南部老人福祉総合エリア」がこの度の高齢者専用マンションの完成で、最初の特別養護老人ホーム「白寿園」の建設から八カ年の年月と巨費が投じられ、ここに目出たく完工を見たのであります。

このエリアの直接の受益者、利用者である多数の高齢者を持つ、県老人クラブ連合会の会長として、県並びにエリア建設に御尽力いただいた関係者の方々に、お礼申し上げます。同時に心から完工のお祝いを申上げるものであります。

エリアは私達の待ち望んでいた、特養、養護、軽費老人ホーム、それに有料マンション、そして在宅高齢者のためのデイサービス、生きがいと生産施設、医療リハビリ施設、更にスポーツ、レクレーション施設、その外に相談窓口を持つまさに総合エリアな訳で、地域に開かれた身近な施設、利用システムのある施設、地域住民や青少年に活用出来る施設、在宅福祉の拠点、入所の場、生活する場と地域の人々の融合の場、福祉と医療の有機的連携を図る生きがい高める場となる、施設環境づく

りの先導的役割を担っているエリアな訳であります。

さて、このエリアの利用者或は訪問者を見ますと、当初の予想を遙かに超えたものでその数に於て更には訪問者の方達は全国的に広がっているところをみれば、このエリアは秋田の人々は勿論、全国的にも待ち望まれていた高齢者福祉の総合施設であって、いち早くこの建設に取り組まれた県当局に心より敬意を表するものであります。

願わくばこの施設を地域の人々や周辺町村の人々に一層活用され、かつ協力参加されることを望んで止まないものであります。

現在第二のエリアが建設されようとしておりますが、第三、第四のエリアが、郡市単位くらいに広がっていくことを期待しながら、完工に当たっての祝辞といたします。





大森町

町長 阿部 勝行

「いかに長く生きていくかではなく、いかによく生きていくかが問題である」とは、ローマの哲学者セネカの言葉であります。二十世紀末の今日的課題である高齢化社会の時代に、この言葉には大きな意義があります。

「長い人生をいかによく生きていくか」に応えた施設が、「秋田県南部老人福祉総合エリア」であります。人間の持つ持っている才能を、フルに生かすための「生きがい創作館」、地域の人たちとふれあう「コミュニティセンター」など、シルバーエリアにはお年よりたちの「願い」がすべて満たされております。

「人間五十年、化転の内にくらぶれば、夢、幻のごとくなり」とは、戦国の武将、織田信長の愛舞した「幸若舞」の一節「敦盛」であります。いまは人生まさに八十年の時代であります。

「老人は、多年にわたり社会の進展に寄与した者として敬愛され、かつ、健全で安らかな生活を保障されるものとする」老人福祉法第二十一条。お年よりたちの安らかな老後を保障する施設が、南部シルバーエリアであります。一人暮らしのお年よりた

ちは、シルバーエリアの車で送迎され、「なかま」どうしで楽しい一日をここで過ごしております。

養護老人ホーム、ケアハウス、老人専用マンションなど、それぞれのケースにより、お年よりたちの「住まい」は保証されています。自分のことができなくなった時には、特別養護老人ホームでお世話をしてくれます。

秋田県のご高配によるこの事業すべてが完工したことを、心から喜びとするところであります。これで老人福祉施設すべてが解決したわけではありません。これからの課題としては、シルバーエリアに安住の地を求めた人たちが病に倒れたときに、温かく看護してくれる施設を整備する必要があります。国、県との話し合いにより、この課題解決が私の責務と思うこの頃であります。



秋田県南部老人福祉総合エリア

管理者 藤原 忠

高齢化社会が大きな課題となる二十一世紀を、指呼の間に望み、「活力と潤いに満ちた長寿社会秋田」をスローガンに建設されたエリアは、ついに完成を見ました。

昭和六十三年七月、コミュニティセンターや診療・リハビリセンター等、一部の施設がオープンしてから三年三カ月、以来、それぞれの特徴を持った施設が次々と整備され、老人専用マンションを最後の工事として、当初計画された十六の施設の工事が、全て終わった訳です。

これで坪数にして四万五千坪の敷地に、床延面積六千坪という広大な建物が、全て廊下で繋がりました。エリア発足から参加してきた私たちにしてみますと、過日の完工式は涙の出るほど嬉しく、感無量のものがありました。

エリアの建設には、これまで五十八億円という巨費が投じられましたが、今やまさに全国に先鞭をつけたものとして、連日、他県からの視察に対応できないほどの状況にあります。

また昨年度は、中核施設のコミュニティセンターでは、地域の老人ク

ラブ等は勿論、大人から子供までのあらゆる階層の有料利用者が五万二千人に達し、体育館や生きがい創作館等無料の利用者を含めると、十万人を超えました。

そのほか四種類の各居住施設は満床ですし、マンションも既に八十%の入居となりました。

また、診療・リハビリセンター、在宅老人介護センター、子どもと老人のふれあいセンターの各センターや、生きがい創作館の事業も順調に推移しております。

私たちはエリアの完工式を原点として、ただ単に要援護の方々に対する福祉サービスにとどまらず、新たな視点にたつて、総合的、複合的施設の機能を生かし、県南の老人福祉の総合的なセンターとしての役割を充分認識し、高齢化社会へ貢献していくため、職員一同心を新たに努めたいと思いますので今後もより一層のご指導のほど、お願い申し上げます。



老人専用マンションオープン!!

エリアは昭和六三年に一部オープン以来、各施設を次々に開設してきましたが、最後に飾る老人専用マンション（有料老人ホーム）が去る十月一日にオープンしました。

このマンションは、これから老人世帯向け住宅のモデルとなるものです。内部は一階が食

堂、バーコーナー、応接室、相談室、静養室、洗濯室などの共用部になっており、二階と三階が居住区、四階はサンルームと屋上になっています。全居室にナースコールや生活リズムオンシステム（注）、冷暖房などの設備が整っており、安心して快適な毎日を過ごすことができます。

居室は一人用居室が六畳と四畳の二間、二人用居室が八畳二間で、ほかにバス、トイレ、洗面台、ミニキッチン、電磁調理器、ペランダが付いていて、冷蔵庫や洗濯機を置くスペースもあります。一人用居室は十戸、二人用居室は七戸です。

提供されるサービスとしては

食事だけでなく、定期的に健康チェックや健康診断も行われます。また、陶芸や木工、民芸などの創作活動、ゲートボールやバタゴルフ、水泳などの健康づくり活動、華道や書道、茶道などの趣味活動など、いろいろな活動に参加することもできます。

（注）生活リズムオンシステムとは、各居室に人の気配を察知するセンサーが設置されており、一定時間内に気配（人の動き）がない場合、自動的に通報されるシステムです。

入居できる方

この施設に、入居の申し込みができる方は、県内に在住している方、または県出身で県外に



1階 応接ロビー

4階 サンプルーム

利用料

使用方法には長期使用と一年以内の短期使用があり、長期使用は次のようになっています。

○入居一時金

- 一人用居室 一、二〇〇万円
- 二人用居室 一、八〇〇万円

○月額使用料

- 一人用居室 一〇万円
- 二人用居室（二人）一五万円

長期使用において、九年以内で退居される場合は、入居一時金の還付制度があります。

短期使用の入居一時金は、長期の場合の一〇分の一（還付制度はありません）、月額使用料は一人の場合一六万五千円、二人の場合は二七万四千円です。



コミュニティセンターは、利用者が年々増えており、今年の四月には新たな休憩棟の増築も行いました。

有料利用者は、平成元年度は約三万六千人、昨年度は約五万七千人と増え、今年度は十月までに約四万一千人と、昨年同期に比べてさらに二千人増えていきます。エリアを視察に訪れる人も多く、昨年度は約一万三千人で、今年度はすでに十月までに一万二千人を超えており、ボラシティアの方（鈴木ミヨさん、大森町在住）にも案内をお願いしています。そのほかの訪問者等を含めると、今年度はすでに

現在、シルバーケアセンターを利用して居る方は、男性が三十四名、女性が若干多くて三十八名、合計七十二名です。このうち、ご夫婦の利用が五組あります。当センターの利用については、知人から知人へと口伝えに伝わり、登録者が徐々に増えています。

ほとんどの利用者からは、友達との交流が一番楽しいとの声が聞かれ、当センターが利用者の生活の中に溶け込み、その一部となって親しまれているようです。現在一人暮らしの方が全体の十九%、十四名いますが、その方々や、日中家族が出掛け

十三万人を超え、毎日五百人以上の人がエリアを訪れている計算になります。



た後一人で家にいる方々にとって、恰好の社交の場となっています。

また、利用者は個々にその方々の目的を持っていて、朝の健康チェック（血圧測定）の時間も惜しげに、リハビリや陶芸などの趣味活動に向かっています。

送迎バスの中でも賑やかにおしゃべりがはずみ、歌も飛び出し、なかにはおしゃべりの花を咲かせ過ぎて、健康チェック時には血圧が上がってしまったという方もいるほどです。

本日に、楽しさ一杯、笑い声の絶えないシルバーケアセンターとなっています。

シルバーケアセンター

コミュニティセンター

エリア散策路

軽費老人ホーム(ケアハウス)

軽費老人ホーム(ケアハウス)は、昨年五月にオープンして以来、一年六カ月が過ぎようとしています。

利用している方々の組織として、「親睦会」や「軽費老人クラブ」があり、その事業の一つとして、先頃、透けるような青空の下で、エリア周辺のゴミ清掃奉仕活動が実施されました。

参加者全員が軍手を手に、頭に帽子や手拭をかぶり、額に汗を光らせて作業を終えました。

また先日、エリア完工を記念して、第一回バターゴルフ大会が行われ、ケアハウスからの出場選手は、見事個人優勝、そし



てチームによる団体戦では優勝と準優勝に輝き、活躍の後に生き生きとした笑顔がありました。

養護老人ホーム

「待ちに待った納涼花火大会」毎日の蒸し暑さを忘れ、夕食を中庭で摂りながら花火を楽しもうと計画した、初めての行事でした。

職員手作りの焼鳥、焼きそば、枝豆、とうもろこし、スイカ、生ビール等の出店コーナーを設け、好きなものを選んで食べる夕食に、皆さん大変喜んでくれました。お酒が回って来たところでのカラオケ大会も盛り上がり、次から次へとステージに上がって美声を披露してくれる利用者や職員でにぎわいました。

あたりも暗くなり、花火大会の声かけに、一人二人と線香花



火を手にした利用者が加わり、幼少のころの笑顔で夏の夜を楽しんでいました。

医療と健康

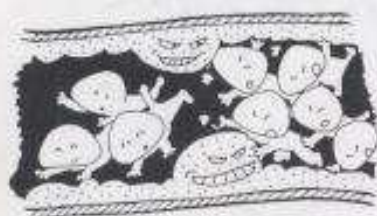
これからこのコーナーでは、医療や健康のことについて解説していく予定です。今回のテーマは「動脈硬化」です。

【問い】動脈硬化とはどういうことでしょうか？

【答え】一口に言うと、動脈の血管壁が本来持っていた弾力性を失って、硬くかつもろくなっている状態です。

石灰や、コレステロールなどが、血管壁に沈着していくことが原因で、血管壁が厚くなるためですが、もっぱら内側に厚くなるため、血管内腔は狭くなっています。

そのためいろいろの症状がでますが、脳の動脈に現れたのを「脳動脈硬化症」、心臓の動脈に現れたのを「冠動脈硬化症」と呼んでいます。



【問い】どうして動脈硬化になるのでしょうか？

【答え】動脈硬化には、加齢に基づいて起こる動脈硬化と、若いうちから起こる病的な動脈硬化があります。

病的な動脈硬化は、それを促進する危険因子である高血圧、喫煙、高コレステロール血症、肥満、糖尿病、運動不足、ストレスなどを多く持つ人がなりやすくなります。

【問い】どうすれば動脈硬化は防げるでしょうか？

【答え】先に挙げた危険因子をできるだけ減らすのが第一で、高血圧、糖尿病、高コレステロール血症の人はしっかりと治療することです。また、肥満にならないようにし、運動や禁煙を励行することも大切です。

(藤本)

皆さんは、日ごろどのように健康づくりに取り組んでいらっしゃるでしょうか

当センターで行なった調査によりまずと、エリアに入居されている皆さんが、健康づくりのために取り組んでいるものとして「散歩」が一番多く、二位の「ゲートボール」を大きく引き離しています。

ある調査によると、健康づくりのための「運動・スポーツ」は増加する傾向にあり、その一位には「散歩・ジョギング」が挙げられています。以下「軽い体操」、「水泳」、「野球やサッカーなどの球技」の順で、

上位を占めています。高齢者に絞ってみますと、「散歩・ジョギング」と「軽い体操」に、やや集中する傾向が見られるようですが、エリアも例外ではないようです。

更にある調査によれば、日ご

広げよう!!

健康づくり仲間づくりの輪

ろの健康づくりについて、「栄養のバランスなど食生活に気を付けている」、「睡眠を十分にとり、規則正しい生活をしている」が上位ですが、エリアについて見てみると「食事・栄養」に関して挙げる方は少ないようです。エリアでは栄養士の作成した献立に基づいて食事が作られているため、個人の「健康づくりとして」ということでは、「食生活」が結びつかなかったようです。

しかし、毎食の献立は考えなくてよいとしても、体の調子に気をつけ、自分の栄養バランスに対する関心は持つて欲しいものです。また健康づくりとして栄養、運動、休養に十分気をつけることはもちろん、望ましい健康状態を維持するために、町や医療施設で行なわれる定期的な検診も、できるだけ受けるようにしましょう。

さて、健康に対する関心を新たに持ったとしても、今までの生活様式を変えることは容易で

はありません。考えを行動に移せなかったり、途中で挫折してしまう場合が多いものです。

それを乗り越えて健康づくりを行なうには、身体的に、経済的に、時間的に自分に合った方法を見つけることです。決して無理をせず、マイペースで行なうことです。そして、同じような健康づくりをしている人ともお互いに励ましあいながら、健康づくりの仲間の輪を、どんどん広げていって欲しいと思います。

(保健相談室)



～森と丘の温もりに包まれて、リフレッシュしてみませんか～

コミュニティセンター

ご利用のご案内



エリアの楽しさを1泊2日のパックにしました。グループで、お仲間同志でご利用下さい。



ゲートボールパック

雨知らず！雪知らず！
全面人工芝の屋内運動場
で、ゲートボールが楽し
めます。

陶芸パック

世界にひとつ、あなた
だけの茶碗や花器、お皿
をつくってみませんか。

パック・例1

1日目			2日目		
午後7時	午後5時	午後3時	午前8時	午前9時	正午
エリア集合	～ゲートボール	～人浴	朝食	～浴場利用	～昼食(解散)

パック・例2

1日目			2日目		
午後2時	午後4時	午後5時	午前8時	午前9時	正午
エリア集合	～陶芸	～人浴	朝食	～浴場利用	～昼食(解散)

◎製作できる作品…茶わん・皿・花器・置き物等
焼きあがりまでは一か月かかります。素焼き完了後、絵つけができるようになりました。また、ご希望の方には、完成品を宅急便でお送り致します。

※道具は無料で貸し出しいたします。
◎料金は特別割引でA・Bの2コースをご用意しました。

利用料

- Aコース…… 6,500円(1泊2日・3食付)
夕食 7品、お酒1本またはジュース1本付
 - Bコース…… 8,000円(1泊2日・3食付)
夕食 9品、お酒2本またはジュース2本付
- ご予算に応じ、お好みのコースをお選び下さい。

フリーパック

各種の休憩利用コースを組
み合わせて、エリアをお楽し
み下さい。

ほんのり宴会コース

料理にカラオケ、一杯やりながらの楽しい宴会はいかがですか。カラオケも無料で、貸し出しいたします。



らくらく視察コース

休憩の合間にエリアの視察を、時間があいたらなつかしの名画を見て楽しい一日を！

福祉・健康講座コース

福祉や健康の講話、家族介護教室も致します。
(1)健康について、(2)福祉について、(3)ボケの防止など

ほのぼの三世代コース

お子さんから、おじいちゃん、おばあちゃんまで、エリアで楽しい一日を。



生きがいコース

陶芸や民芸などを楽しんでみませんか。
創作のあとは、お風呂に入ってゆっくり休憩利用！

ゆったり会議コース

老人クラブなどの会議や研修会はエリアで！映写機やスライドもご用意できます。会議のあとは休憩娯楽室で楽しい宴会を！

すいすい温水プールコース

雪を見ながら水泳を。大うきわや、ロングビーチ板など、遊具もいっぱい！子供達に大人気!!



健康づくりコース

人工芝の屋内運動広場で、スポーツを楽しんで！。ゲートボール・バドミントン・バレーボールなど。